

情報モラル教育においても、子どもたちの危険回避能力の育成が喫緊の課題になっています。ここでは小学校の実践として、文部科学省が示している『情報モラル指導モデルカリキュラム』に基づいて、「2. 法の理解と順守」と「3. 安全への知恵」に重点を置き、各学年で指導すべき内容を決めて下表のように実践しています。



1. 本校における情報モラル教育の計画

第1学年	第2学年	第3学年(次頁実践例)
<p>3. 安全への知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人と一緒に使い、危険に近づかない。 ・不適切な情報に出会わない環境で利用する。 	<p>3. 安全への知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人に連絡先を教えない。 	<p>2. 法の理解と順守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信や情報をやり取りする場合のルール・マナーを知り、守る。
第4学年	第5学年	第6学年
<p>3. 安全への知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険に出会ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する。 ・不適切な情報に出会ったときは、大人に意見を求め、適切に対応する。 ・情報には誤ったものもあることに気づく。 ・個人の情報は、他人にもらさない。 	<p>2. 法の理解と順守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何がルール・マナーに反する行為かを知り、絶対に行わない。 ・「ルールやきまりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する。 ・契約行為の意味を知り、勝手な判断で行わない。 	<p>3. 安全への知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予測される危険の内容がわかり、避ける。 ・不適切な情報であるものを認識し、対応できる。 ・情報の正確さを判断する方法を知る。 ・自他の個人情報を、第三者にもらさない。

2. 情報モラル教育の実践記録例 ～第3学年における指導～

第3学年においては道徳の副読本を用い、メールを題材として指導を行った。本時の展開については下表のとおりである。

(1) 本時設定の理由 ～児童の実態から～

事前のアンケートから、全員の児童がパソコンや携帯電話に触れる機会があり、4分の1の児童が、メールをしたことがあると答えた。また、携帯電話やパソコンでチャットをしたりゲームをしたりという児童もいた。今後、学年が上がるにつれパソコンや携帯電話で情報に触れたり通信したりする機会が増えていく中で、危険な目に遭う可能性が低いとは言えない。そこで、メールを題材とし、「人に物事を伝えるときには相手の気持ちを考えて正確に伝えなければならないことが分かり、実践しようとする態度を育てる。」ことをねらいに授業を行うことにした。

学習活動・主な発問と予想される児童の反応	教師の支援
1. 携帯電話やパソコンでメールをしたときに思ったことや感じたことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> • すぐに伝えられるから便利だ。 • 顔文字や絵文字が使えて楽しい。 	○ 携帯電話やパソコンでのメールに興味を持つことができるよう、事前に行ったアンケートの結果を掲示する。
2. 教師の示すトラブルについて原因を考え、発表する。 <div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>A君は、友だちのB君からメールで今度の日曜日に釣りに行こうと誘われました。A君は、メールでこのように返信しました。 『りょうかい。』 次の日、学校でA君はB君にこのように言われました。 『A君は本当は釣りに行きたくなんかないんだろ？他の人を誘うからいいよ。』 A君は、とても楽しみにしていたのに、何でこんなことになってしまったのかと困ってしまいました。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 『りょうかい。』だけでは冷たい感じがしたから。 • 『りょうかい。』が楽しみにしているようには全然思えないから。 3. トラブルにならないようにするためにはどうすればよかったのかについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> • 『りょうかい。』だけではなくて、違う言葉をつければよかった。 • 『りょうかい。』だけではなくて、楽しみにしているという気持ちを伝えればよかった。 4. 学習したことをもとに、ロールプレイを行う。	○ 考えが出てこなかった場合には、トラブルの原因となった言葉（『りょうかい。』）を見つけさせ、その言葉のどこに問題があるのかを考えさせるようにする。 ○ ワークシートを用意し、『りょうかい。』に書き加えていくことができるようにする。
5. 人に何かを伝えるときには、何が大切かについて考え、まとめる。 <ul style="list-style-type: none"> • 人にものを伝えるときには、受け取る人の気持ちを考えて、自分の気持ちが伝わるように正確に書くようにすることが大切だ。 	

(2) 授業を終えて

以下は児童が授業の終わりに書いたまとめである。

- 相手の気持ちになり伝えることが大切だ。
- 自分の気持ちを誤解されないようにはっきりと伝えることが大切だ。
- 短い言葉ではなく、正確に伝えることが大切だ。

「相手の気持ちを考えること」「自分の気持ちが誤解されぬよう正確に伝えること」が大切であることを、授業を通して考えることができたことは成果と言える。